婦理

五

特別
へ5
6089
3

宮内省図書寮

歌仙

宮本氏之文庫

高橋文庫

おもうやうやさむくなりて天の原　白峯
ふるとりたえの岡の帆柱　春來
柳の糸の端のなびくを　未丸
なくさそふ飯を盛るも　逸丸
紫提ふく馬士のうけまる月の弧　渭北
霧ふるく雲の中なる有　紀逸

54-4099

尽きてぬ草の花の庵　春来
大工らしハの海く小便　渭小
奥ゆかるる新しめる寺者や　紅逸
きめくる花柳ハ弥生付さ　未丸
薄雀や秋の一しめ風の　笑丸
時見ましくまて一銭もな　春来
敬くて湯漬の着の上ハ　未丸
春風吾ぬるきさの月しろ　逸丸

頭巾成ハ仏の出やうと言ぬ　渭小
法もの中よ前をぬく　紅逸
残春ハ李杜のうへをとり　春来
四十ぬくの月の洗きうふ　未丸
鶯鳴石咲まくめも清爽て　逸丸
りらふ場枝乃掌くまつ　紅逸
きぬくの蘭園のくふ異ら　未丸
庭ハくらふハくく吟ず　春来

きよ丶文きの丶よの丶文ゑく因果経　渭小
居住貧らく丶河部安兵衛　送丸
栗うく通よ嵐の通るゆゑの源　紅送
細うち通れ神垣のうと　渭小
鉄砲洲秋ゑ暫ハ浦ゆく　素
しうく息をきてる灰占　朱丸
ゆうき丶和歌ハきう月の雲　紅送
夢哀し酒うふ秋いまうう　送丸

ウ
沙室守陸ふわいふ吹る曳　朱丸
通丶丶を洗ふ凱陣　渭小
金銀の扇風とりへいうの　素
禅ふいか丶めるき白あへ　紅送
草履さく百きうの毒壁　送丸
ソアく丶の陸きく丶寒　渭小

奇仙

たみくさに肌寒く零る卯　秋色

鳴き鐘も霞より浦　春来

佐の〳〵坂の近ほのぼの　菊院

橘の廣葉を鼻に拭く　九波

暮ぬ〳〵と鶯の調べ　長梢

わすれ田のさい麻の蔭ゆく　再賀

行年の老耶も亦た秋ぬ　祇亟
ましらふ人うるの敏　某仲
五十日振り如月まち振り　素
ましまつる煩悩の利　蒙
瓦燈石火ふたゝび潜る　九皮
うしげのあの清く生れ　長梢
雷と輝いたる世のうゝし　真
観音行ましうかくふく経　祇亟

神の月ましまこしやくふ風巾　某仲
陸子の光氣のうゝ漕く　九皮
神くまんかくまの世のふ蓮の口　蒙
臺湾責し博奕なる　素
作くまうの愛仲の人よくれし　長梢
看つけのまくうる清素　真
風呂変ふつくむんや占筆　祇亟
出れ居の色ましの戸　蒙

炭俵今いしの[illegible]九段
[illegible]百[illegible]柏 [illegible]
月[illegible]社[illegible]の潮[illegible]時 [illegible]
木綿の[illegible]拭[illegible]切れ 紙屋
[illegible]紙[illegible]風[illegible]つ 雨[illegible]
山伏[illegible]戸[illegible]さ[illegible]馬[illegible] 九段
[illegible]別[illegible]の[illegible]人[illegible] 菓[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]日 [illegible]邪 [illegible]

ウ
朝[illegible]鉦の[illegible]屋[illegible] 九段
[illegible]氣[illegible]迷[illegible] 菓[illegible]
探[illegible]人[illegible] [illegible]
煙[illegible]別海[illegible]事 [illegible]
[illegible]降[illegible]の[illegible]役 [illegible]
[illegible]の[illegible]時鐘 [illegible]

歌仙

[illegible] 尺艸

[illegible] 春來

[illegible] 百壺

[illegible] 栢莚

一[illegible] 先の月見[illegible] 小役人 蝙名

[illegible] 曉雨

ずの〳〵荒田早き神の秋　友以
月乃点ゝけ新也状　百蜜
吉祥寺吉祥院の取遠し　素
待ゝ人ゝ神の名残を　帀名
黒髪お神も待ます茶湯敬　相遊
御ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵　友以
同帳の日延ゝ暮くゝまし鉦　暁雨
出撰ゝ〳〵ゝ〳〵の星ゝ　素

蚊の中の蚊帳ます切艾　百蜜
風中ゝ〳〵ゝ〳〵の三日月　相遊
敬ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵裸馬　友以
蕪の菓ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵　帀名
味噌ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵富士　素
謝ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵　暁雨
〳〵星ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵　相遊
ゝ〳〵の所の見屋と探新　百蜜

[illegible]金の帽子を入れ過
大根も二代入れるように
網目のように戻る心
蓋もとれば枝のまるまる
脱ぎまるまるすのトふ之煙
[illegible]ふつふつ莫逆の友
盤銅の月味く峯が似るように
[illegible]ぐる赤い實の色

帽子

帽名
友以
曉雨
帽名
百靈
相逢
喜美
曉雨

すくも[illegible]海德さんふ稀牧
白[illegible]
[illegible]の風流の一点同り
海と出る義の同
夫先へ花の卿入れ先の盟
赤い曙 酒[illegible]

ウ

相逢
百靈
友以
喜美
曉雨
帽名

奇仙

江の月の清みの刺売　鋤立

秋乃姫れ花くの家　春來

鉞ものゝ通章のもつきて　笙客

河の和もの鐘　買明

信くふ山の月くまもれ松　祇亟

ものれ名のもあるる　南花

東の猟師が所に郷の中日の人
九雅郷にて
併くしまき三峠の井戸
白郷より行かの日もわり男伊達
捨てもあれす青の杉若
きのふの伊達の原の後
唐人の歌も味方を

峨山
笠岩
長尾
祇園
常明
郷山
南花
長尾

打ちかしの猟の入会を行事
犬の目や
月の猟人も
ナ
河内の
岬
張色の

笠岩
常明
郷山
祇園
南花
笠岩
常明
郷山

養とりのかの一会をふるつる　壽
宮の堂の前の井の水　南花
入口の寺のかまちの小杉原　紙屋
薄をつくのと蓋をうつ飲　宮川
病人の所をつの次第を再移し　笠家
くるくると目のさめる珊瑚珠　紙屋
岩の月舟の留石をとさ道　南花
くるくるとつるもしたしく　壽

[illegible]の時の[illegible]　中山
鹽の屋[illegible]けれ飯　笠家
[illegible]さ[illegible]同の宿　宮川
ぐるりくと牛の情　壽
花生の鉢の[illegible]　紙屋
八重山吹の[illegible]　蓮谷

寄仙

其角僕
是橘

賣ふふるく見やる甲斐
葉ゝ長菴ゝ門　春來
活け鯉のもみりふ蹲ゝ　文睡
わつまうけ月さらさら　都巖
風の日を竹の暮ゝ　渭北
寄仙ゝ百兵乃ぬるまい　潛魚

犬と貴人寒い中しん方時雨　大雅
侍る女は小原の母なりけり　文瞳
鬼神もうら貴のやはくて　去来
くれぐれもすへらうつくしき花　渭北
侍るも土時の眉毛のきらしん　紹巌
望の雨のり落黒い也　大雅
狗率の分すこし春をまつ道　路通
待火の飛月の鏡　文瞳

露の身の問ふてつきに葛郷　渭北
大鳥源五親もなしか　去来
花よ郷吉野の使者まて　紹巌
撰れ生海苔の身の縁と也　渭北
扨くも一膳すゝる大ところ　路通
病し見かくて又睡りけり　大雅
煉化るの心のころもとて　去来
さしいわ酔ふし色の君　紹巌

ウ

拝みつゝ種焼の肴ふつゝ　春雨
已う預と猪のたうさ　渭小
ほこりふ枝の有角ふ　之腔
色と鮮ふ龍宮洲の形　大雑
幕の結草ふむ　潜魚
袋の結草ふ　砂巌

未まつ[illegible]と仕[illegible]酒と
[illegible]
母と[illegible]

義士
子葉

灸わ[illegible]と傷と夏[illegible]

厨仏丹吟し[illegible]忠孝の美　春宋

鍬い[illegible]わ[illegible]山の曙　普子

末綿[illegible]の衛留[illegible]　畔水

夕月よ何わ[illegible]の撰かう　采仲

橋わ西山の暑さのこと[illegible]　秀億

ウ
横町へ曲り稲の赤くなるまで
なるめん醫者の鼻のすぐ仲
四まつけて塩梅の善悪かんの
駿河の花の枕もとにもたれ子
山のうら伝の秋の狩伝
まぶ舟宝のりのれ山寺ま
たのつぐふ留るに音る岡両子
のうち電なるまゆくの宮伝

江戸京かつをまぐろ抄のうち長仲
非人を用ひる事乃入口多
次燈ふ躑躅のくまの樹屋の月ま
ひ伊わるとしうふ白酒を喰く仲
ひりうう馬うんが屋頭が服わうう多
傾罠ふ京ふ伝片見子
朝夕の鼻かつるる塚の松伝
ゆるゆると玉ちうの年多

[illegible]子
[illegible]つゝ西の首ま
傘の[illegible]件
[illegible]病[illegible]信
[illegible]ま
[illegible]の月雪子
[illegible]件
橋の[illegible]多

[illegible]子
[illegible]信
[illegible]多
天平寶字四角[illegible]件
[illegible]信
[illegible]ま

歌 優

梅の花笠は何を飾るぞ　古　少長

めるとしらるる舟　春来

二葉より奇麗も面白おかしき　少長

撫でさすらるる猫の子　舞雀

初高し行つ戻つ午の日　雀童

新酒の徒も秋のうつり　藤橋

職人の色代の生所魂　故一
男を鏡に息をけづり磨く　少長
ぢうもきう大音寺前豆見てい　春来
あの言葉や竿ふて寸編　雀童
濃みけしたいもを濃垂て　深橋
仰母のまるまるとれる弱弟　故一
さいくとわるとかぬさを溶　藤橋
うるる軍へつ体くく　帛　春来

小田原小田の名産所　少長
抵つ連の名あり先は分　雀童
月の宿左宮い鷹つ爰を記　故一
掛色作くしあの什ふ喰　翁橋
寒食のもつ名ふまる同　春来
柱もいくやれ名の歌　房橋
蘿刀ふ去の作つの味　雀童
かさうくかく蟬を遠つ声　故一

羽月乃母を見て有賀ふ　茂橋
つのいふ乃拾者ゆるゝ　長来
もゝ橋よ虎の毛衣年を経て　翁橋
太るい橋と濃く生つき　少長
主清乃濃もゆゆわり　故一
猪いかゝうゝくゝゝ月　茂橋
料理人衣声と射る思ひ　長来
ゝゝゝ向ゝきまゝの色つき　雀童

命借ゝゝゝ屋頭の場　少長
出生もれ山のうれ巓　故一
狼乃送るゝゝゝゝ知ゝ　茂橋
親孝行ゝゝゝ書ゝする　少長
ゝゝゝ花のゝゝゝの出芽師　翁橋
乃ゝゝゝ蒜乃一鍬　長来

詩僊

[illegible]牛といふて角力取　彫堂

稲穂のかゝる酒屋一軒　春来

九月のうつくしかりけん　素勇

強炮神ゝとロく引ぬく　由林

大寒いれかゝてきゝ　米仲

鋼硯　閑室の[illegible]　嵩之

ウ苦い色の隠しもされぬ顔皺　林
麻布の松を傘として見む　勇
時雨のうまくし出雲へかゆる　ま
ともりりらて五反帆の松　仲
禅と豊へ過ぎてやどの峯　之
家中の乳母の近くみまかれ　ま
何事も出るすかしも稲荷さ面　勇
蒸かわりける菌柄杪反る　之

大蛇とこそおいて冬の中　ま
鋳月高き鶯の巣とさまよ　仲
兜跡の西国の隅ありのくつて　林
つる我ものよ郎し是持　勇
ナ飯かく図雨いわりまくらし　仲
多幸親すかしとけさ路の馬　ま
浮所湯一度は人の内し成　之
冬子昼すると伝の杯さん　林

扨入まく簾い泡壁風ふる雨　雫
院の門前のうきまれく　く
むかふ紙燭をぎうといくもろ　林
わるくしのふん幸きに庵　仲
単衣うち月黄昏の鍵がかろ　ま
つめきらしくしきのたと入　雫
銀杏ふ葉ふるる風の音　仲
持つくしくこころ竹　林

金屏のすきまからいろまれ　雫
ぬ侵ふまく矢の根戴く　ま
突状の虎ふ勝を突　く
朝日のしくを通るき空　仲
流やれ得のより三花の法　林
ふ俺てあるを食の時　乾

歌仙

あのうへ[illegible]おろかなる蜂　山蜂
息はなうつる山の麦　春来
朝ゆふの酔の輪に風の戻りもし　自来
冷の明るさ肩ふるふ　友以
月寒く温石探れば夕千尾　李柳
まるまる昏の鉢まる小さ　南花

ウ 松の色のきよきを視て
よつゝる子音の周 渭北
鳴松つゝみ意を持つ 春
驛路の駒を捧げて来る 自春
九十三こけわかまつ掛ひつゝ 南花
純子の衣着いたてそまぬ 雪柳
うつのもかまを持る紙い色成 春
神多のうゝを拾めつる月 渭小

兼吟の原親かまする種ゝ 友川
うつゝをつゝ紙筆 猪 自春
徽野ゝ中ほの郡ゝ 南花
ゝしの色ゝ探ほ 季柳
十ゝ魚も子ゝ拾ほ 春
四日市うゝ船ゝ神ゝ 友以
ゝ変ゝ持ゝの丸鏡 自春
筆を拾ゝ神ゝ 南花

自我偈ゝ寺の衣衡ゝ愛稱　芦庵
おしをとゝ山かゝ寺　春
流れまく中の渡も清瀧川　閑小
と舍の凄さ舍兼んく居　自来
穂ふさ屋をと落く田舍の秋　李郷
い月中の雨をみうまき　芦庵
蟬の声ゝ一こ尺　春
ゆゝの位牌を掃ゝ　閑小

吉屋義乃大師河原へつゝみぬ　南花
ゝ面白いうつきさ　芦庵
馬見れの清ま水ふゝ排　自来
不成就日もとゝ　李郷
ゝ二つの月も義の居　文妖
田舍とゝ　朝ゝ稼や　春

歌仙

[illegible]の[illegible]や　芹菊　岷平

[illegible]のもとふの花よりなく　春来

[illegible]を[illegible]ふえらく　青雨

[illegible]と[illegible]こそ入　栢莚

[illegible]の月夫の松い大なるし　渭北

[illegible]て[illegible]屋　峨山

ウ

うつもれぬ奥とあるべく仏の雲　暁雨
はるかなるべく崩を法火　笙容
黙るべく沖のうろを異り　春来
眼むのもとに師に師しうう　渭小
坊の仏の伊母の使と拓う岡　栢延
猪むしもやもやもの祇　青雨
時なるべきを振ける　峨山
法師りしく家移もまる　暁雨

糸車大和河内のあくる雨　笙容
もの酢とはなる胡蝶の新　栢延
経沢下枝の庵つる深雨螺ぬく　渭小
清水とりるあるあ月一膳　春来
ナ
てるるる月はしる里雨　青雨
ずふるる清はる門番の巻　笙容
鶯ついまるつるふ村の者　暁雨
ちていかし蝿いまるる紀　峨山

紅葉鉄炮乃弾ニあたらぬ太　栢延
葉を投つけてうちうつらん　青雨
薄竹をうつ〳〵戸帳をまとかける　笙客
鎌倉道をし屑合〳〵　渭小
川袋〳〵蛇乃操い知〳〵迄りる　春夫
仁王のつらき牧しも寄ると　栢延
月新やの〳〵氏をめひ合せ　峨山
張るゝ〳〵ちの貫〳〵　笙客

ウ

鬼灯のまつ〳〵生しる君ゝ代に　渭小
よゝ神居し太郎冠者呂寸　峨山
吸物を沉まぬりのをまひ上　青雨
ゝ〳〵ゝ〳〵舟のとの揮　春夫
魁を章ゝ〳〵ゝ〳〵毎の伝　暁雨
ゝ〳〵ゝ〳〵の鈴凡中の伝　栢延

歌仙

蟹ふる遠ふ人ハ唐絵のうるはし　紫紅

鶴のゝきさらぬ所ゝ　春来

きりゝゝす風煙見屏風連ねさ　古峯

草履のゝゝ苔踏ゝ　童峨

杉の月庄屋埋もゝ五百年　渭北

うゝぬるおのゝ角力入ゝし　虎躰

根生の[illegible]ぬぐを鑄たり　友以
きの[illegible]を俳縮酒裁　峯
黒さの金ふ刀をゆうて　ま
馬もとくまする君うの家下　小
鑄と笛隠ふ[illegible]の情わ家　脉
汁いうの[illegible]ふ蒼替　峨
朔のこの月の博奏　峯
月まわ[illegible]飲ぬ香ふ酔ふ　狀

情新く坂田羅のこうもし　小
家光こうわ歩三兵ぶも　川
こいまわく小便を用ふのり　峨
こうの摘んこうこ家千ス　ま
雑子罠の毒もこいを牧　脉
竹のふこの人をあふけ　峯
調市まく田し松ふ能ふ色　川
きの出常ふ頭書しく　小

掛まけるに人参詣者の罷のけ
仙臺船をと掛けの義
奥つまむものいかるとれ下ゆを峯
本像まを婦大檀那うら川
旅ちうも日和を為のうい調子嶋
橋もうをぐもをつく日来
渡のゆるぬ日いけ志摩岐川
かをしひをを御果中嶋

7

ををしのを御ぶ紺おけのうへて来
わうしひをる漬梅の家峯
あうを石をを方石の竹節祢
をををくわをの池淀貝西嶋
を代を解ををりを花の家川
ををわうしを登をの小

歌僊

黒髪のたくんでもある郭公　其雪

和尚花ゝ　①清き薫　春来

今出る屋敷の瀬をとめくらむ　季柳

丸銘　角銘　朱銘　鼓銘　南花

見すまくい代官持の月の優　友以

殘るわつさと飯か喫わく　可夕

ナ

ゆきとゝのわらはをら　自来
三河鳴りし地代まれも　秀億
時しわるゝ月見おぼえ　存義
使者し奏者の花ひやう　重卿
一日の長い小まつ　南花
わらしをゝ　友以
時しらふ言葉ふ　重走
炷くもとゝるし四阿の月　自走

鶴鴿ふつい流々芸わる　秀信
夫々桜の枝おくまれ　南花
花入の雅もも手家の言ひを　可夕
きゝ記稲のもとゝ　存義
ワ　ワれていひ言ひ言ひ　重卿
乗屋の鼓ものを　重走
ゝ通ゝ大変りの法人女　自走
白山道の猫の黒山道りゝ　夕

しの温泉ふけのうゝ七三三年　春義
ぞうして叶はぬ備の朋切　変信
ぐゝゝゝ四つ時のむ穀　友以
戸前の枝もたれたりぬる　亨成
徒歩のうゝ鏈の船便　南花
安上霊窟神通の金　玄柳
舶まゝ鉢ゝ四代の朝つゝし　変信
見のゝゝふ国栄を帰く　友以

ウ
露前の戸蛟の赤光り　のり
ゆゝ序の一首いまゝく　自美
鉢ゝ八日女の個ふつゝで　美
やゝかつゝ里の鶏　雪柳
門ゝ宮のゝ和いゝ西の子　南花
ゝのまふゝ和杷の二ゝ葉　執筆

歌仙

[illegible]大海の[illegible]酒の邪　蚊足

[illegible]もてはやし　も寒き梅　春来

[illegible]の[illegible]とはなの[illegible]　来國

[illegible]も[illegible]と宿の[illegible]　茅仲

[illegible]の[illegible]月の[illegible]　蘭秀

[illegible]露[illegible]　萬立

ウ 何の島うまく吟じ給へ　渭北
穿くと問はせ給へるの合と　存義
頌に曰くんさくと風ふむ　春菜
一刹那より行りうき屑　素圓
逆に帝くとまくれくや　羊仲
親指強く茅巻くの年　蒙秀
歯舶の続くまもむのふの　第五
極よくあくく蠅の初声　渭北

今申くく眼やく問せるまの色　存義
朝つくひう卯　羊仲
鶴鴿の糞くまくくに見写　蒙秀
くくくに丙くくや天の八朱穂　素圓
ナ　末仲伝者紙ふりやくの際くよ　素圓
大お模くくくくのくくくく　存義
沖丙くく瘡くまくに根よ　渭北
厠くくの時官位りく　第五

きりぎすは海と林と塩煙　玉川
清水に舟をしまいつるかな　童圓
彩雲の山寺の西遠者とまり遠　春来
ゆくさきをたりやすけの二歩やろ　蒙秀
ゆるりの稲くえん帳しく庵　春我
こぼしをつ通るあ神の三寸　第五
きよの月天蓋敷ひとくるる　胃小
をくくみくしく松の露　玉川

ま燈ゆくく稲妻の塩浪の雲火縄　蒙秀
犬待ひがくくとくり　春来
雷のくくくくくくくくよ　第五
持参よりくる一日の就　童圓
行儀の紀くくう暮くくくくくく　春我
白もくくを人まい餅草の雲　胃小

歌仙

和歌才

牛の背の草ゝ暮れ蛍ゝ　立志

月ゝ冷ゝくさめる川音　春來

蘆陰ゝ白鷺の休ゝ居ゝ　其童

十ゝ夜ゝ登る十ゝ三盃　水彎

笛鐘ゝ夫の船を曳崩ゝ　和專

ゝゝゝ雨ゝゝゝ　童

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
入日の宮のうしろ遠き雲
遥かなる空に[illegible]
高い所ふ火の[illegible]る秋 末

蛤の殼ふ[illegible]れ薄日かな 雪
風[illegible]る番[illegible]の声 童
君代の高[illegible]ふ[illegible]遠 雪
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]風 雪
山蟬の殼ふ夫宣い鼻の先 童
[illegible]大塔ノ宮 雪
[illegible]の[illegible]ふ[illegible] 末
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]紀 童

焼亡鐘の供養のは一尺　雪
さりとはひし親の日のうら　来
しく風に涼子のやうな濱千鳥　芳
万俵二本馬の通り合　堂
掃除の日月額の日頃のこと　来
唐紙のまとく半輪ノ秋　雪
うつし丸負てのまする筆の命　堂
堰とーする業翻舞の卯　来

ウ
日常くりしいあされる嵐の巣　雪
つらふゆ燗て肩へうつく　ち
無縁に谷の立関の道すから　来
青きとて踏んでる芥は白　堂
海川よ鉄れとしく秋の雲　亭
くしとりまする千里鶯　雪

歌仙

初鶯のうちもかくして月の卯　作者名

いとゝ噂もとゝのうゝ其儿　春来

つのふるゝ人数ぬいとゝ障子ぬ　室戸女

きつゝふもとゝ左右のまゝ濃　故一

三日月の暈ゝ落海の面　沾耕

冬凪ふまゝくゝものゝ松　栢莚

方丈の庵に初嵐　芭蕉
鄙もしるべき頃の迎ひ　嵐雪　室戸
豆腐屋にとりかけ
赤い菓子屋も出来て　沾耕
明けて来る鑑国を見き　伯父
又もしらぬ雨の雲　芭蕉　故一
若麦の芽の白き所　除川　柏逸
狩くらしる方秋の月　芭蕉

きりぎりす女の蓑虫の音かな　室戸
奇物ふるまとけば笑みうら　故一
八丈しらぬ中ぶるの下拭　沾耕
門松の何かと天の美みより　室戸
集も来ぬ高ぶる通町　芭蕉
嵐の流れ金をもめの　柏逸
検挑　芭蕉　沾耕

ふつゝく薬研に搗る姉娘　故一

能舞く代へ茶巾を立てし　米仟

果寝むし星も見れしと雨戸明く　栢莚

蜻蛉行くゝ行きし方　素生

修行者の十節手に穂て覚ふ　室戸

うけ盛ましく萌力散待ふ　栢莚

ほうろふ細さ引いは崖の月　米仟

銅戸樋は小座布の面　故一

認文て済めし婿てねまりて　沾耕

暮径はとまし篇實まて　室戸

鷄の吟きぬゝのさゐいて見る　故一

よき連く庵く濱ゝさの状　米仟

花ふよる迄頭巾の壽老人　栢莚

五かよふけるゝのハきんすり　沾耕

歌仙

三条西家手摺しき人太　我兄

一樹の陰の蟬かな春日　春來

洗濯の帆あらら陸ちゝすむ　陶中

高の〳〵真切れわたるの色　了因

秋十猫下町の夕月くまなく　茅仲

ちら〳〵西瓜のこる畑のま　蝸石

和泉より借り申候樓船まうけ人
と食の情あわれなる事 仲
華ふかわる雨ふらする人を雇 名
雪の条いと悲しく風のたつる 中
借りのつ撰かふまと三ま陶 岡
わらくるものを探 腮 禪 ま
大荒の雨ふる小磯山 仲
筆の家を入まる寺 名

引負のゆくとみとく 中
牧有ふわる花の下露 岡
端くの月を闇ふ蛙 ま
嵐の視をとまくと振る 仲
いと劍の罷い紛しかを作り 名
世仰ふるの男ふう 中
松文をまとく瘻の陽かの 岡
伽羅くの火傷の人形ふの ま

毛遠く酒を拭ふ袖の露　仲
流れ〳〵八幡屋の石
寺御ふ聞く時雨もし中
浄瑠璃世界ハもる出雲国
朝夕の須根へ海を持ち入れ来
捨ておるものゝ〳〵分鶴　仲
おもふ廃ける月の縄簾中
くるゝ〳〵老ゝ松の花分国

7

山住の年中暮も年〳〵経る　仲
畜屋出ゝ〳〵もぐ海つく人　石
寺門〳〵八紘の数の勝うゝ　国
砕けく廃れ毎日の多　中
花の解〳〵三付九葉見〳〵廃　石
根ゝ〳〵小社ゝ〳〵一様　来

歌仙

金〻〻〻絵馬を掛る時雨の邨　佐文山

市の〻め男の醫者さまの〻　春未

苔船の宮角が宛へ居り〻　晋馬

さぶ嵩の小屋ぬ〻き屋　和山

飯まく〻ふかろく月の行方解　律車

肩の〻波と藤の方枝　存義

ウ

竹の葉に雪の錦のわすれ物　ま
小しくふるなまじの声も九郎　馬
三男は照る日も下枝をうつる　山
水鳥の宿のくるる秋　車
初霜のわすれがたきにまさる　義
物ふしをふるんだ　ま
咲ともしらぬ陽のわらひ中七夕　馬
寒ふかし入る日つ鶏めるしる　義

つくづくと鶏のくるる磯の宮　車
奢る年家の花火さい中　山
鳥わの鳥いるひの中の屋の宮　ま
鶏の砂の掃もく　馬
ナ
くるる夜生蕃の夜の長い　義
法勝の鳥もかるるもん　ま
うるうしとよい移れぬ田植時　山
百一年のくるくるく都　車

徒紙ハ風吉の[illegible]馬
養の君の[illegible]不[illegible]義
吉田の[illegible]狐つ[illegible]堤車
を葉と徒る[illegible]の[illegible]飯山
[illegible]の[illegible]の[illegible]麹賣
北面の[illegible]の墓馬
[illegible]月[illegible]の[illegible]義
[illegible]の[illegible]の[illegible]車

草狩の[illegible]挟箱山
金[illegible]知る[illegible]の町
銅[illegible]吉[illegible]馬
[illegible]義
[illegible]車
[illegible]山

歌仙

咲かゝる藤の影さす井手の上　白獅
霞の末さゝ町もしはらく　春來
きかゝ飯豆ゝ小男鹿　幸之
明石の蓋へ寄るとくのゝる　百字
拾反蓋棚の木間月むし　存義
ちくきをとゝ鎌もあしし　我山

戰場を皆焼捨て稲むらの
火の唐土にきかぬ国の
須磨あはしらぬ月の
国うたうたれ鳴くの端之
毎日の如くもあく宇
鶯ふ化少を見代の人山
清水まりつの般若経義
猫もねの面魂もなる法

無成くの四輪も月のかたつを宇
なる宇まもくを振る宵の初年之
枇杷葉くゆらぬ和を奠う豆香山
風掃くくなる入宋の船宇
第人の月かをくるる三笠山之
汁をけて参みせくなの船わ義
三人の冬ハ徳わかくをを山
刑書なくなる村の騒動之

市庭へ彼船の荷物うりせく事
難波潟海尾い陽の方へ
鑒口の潮も干ぬ秋の月 之
如例行き草市の露 山
事不絶くて見せる出つく事
頃ろ弾丸岡山の公義
行京を持て駕の重り 宮
惑ひうるをつりをまいとと 之

丙辰の秋三月を修覆前義
志ゆを板の北条事
まを板も沙を敷の和歌宮
場を河るる池の朝乱義
咲くを花の樹下を見せて赤き居山
御きよ所かは鶯の川事 敷事

歌仙

果ハてゝ佛乃道ゝ落葉乃卯　珪琳

鐘ゝのゝ撞ゝく晨ゝ霜　春来

待雖ゝ布ゝ付ゝ笑ゝ　竹尼

ゝいゝとゝい知ゝゝ陶ゝ振る　故一

くゝれの日ゝゝ日暮乃寺まゝ　楚山

軍鶏の日ふゝゝつゝ弥ゝ　孰葉

長崎乃守護所ニ而ハ一
[illegible]ハ乃而ハ
故[illegible]大ふ豆の[illegible]乃所ハ
ハ係の[illegible]ハ[illegible]借す山
鶏乃音乃のふ鶏の[illegible]ハ
験者ハ[illegible]日いふ[illegible]ふ[illegible]ハ
擂製の[illegible]ハ
[illegible]ハ乃[illegible]ハ

ふの場ハ敢ハ宮の如信[illegible]、
脚ハ[illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ
音[illegible]ハ[illegible]の酢[illegible]一
蝶[illegible]ハ
[illegible]ハ
[illegible]千貫乃綿ハ
車[illegible]ハ吉原乃擂一

時鳥は花ちるの釜ぶた何瓦
屋ねの影の脚の下ゝ末
寄生は霧ひゝふる幕の上一
程のあしとは拭ふ客殿瓦
はゝのゝとのゝもゝ嘘待末
ゝゝゝ仏もみ曽呂利ゝ一
ゝゝゝと小判と崩と音の音瓦
ふりやゝ乃音の川音末

三十ゝよりゝゝ形のすゝふ取末
外路乃ゝの原鶯ゝ拾ふ鈴一
はゝゝふ為ゝてゝの鬱ゝまて瓦
のゝら奥ゝを切ゝゝ飲末
蓑ゝ着ゝ花の使と吟ゝ一
世間ゝゝふきゝゝゝ乃海瓦

歌僊

熊坂ゝ薙刀焼て霜夜ゝ卯　差鼠

ゝの〳〵吼る狼の口　春来

雪〳〵ゝ鶯〳〵啓ゝる雛ゝ　左十

竹ゝゝか〳〵ゝ猫ゝ嘴む　暁雨

ゝ新ゝ鱈て切る月の又丸し　故一

月ゝゝ鳥の遠〳〵　其斎

稲荷ウ卓も間覆も押やる　丈
夢の係てうけれる鍋　十
西矢の起くんの息つく　兩
一八咲くを法る智　一
異国るかつ成る伊勢の家　脊
まそむ女捜箱待門　丈
打つ叩ちつ吋の　十
御師の現くつ取こ　脊

竹助源太夫とい獨ゆく　一
十日前後のつ午の月　丈
唐門い花のるみ鎖ゆ　兩
桃款冬の京のどく　十
岐阜度京大坂も一口　脊
彩撿技の探れ式臺　兩
時島井堰ゆるの音　十
探つ育門犬も三茶　一

托鉢の小粒は米にかはるまで
紫はさもしきもしらるるや十
四四位の位金らるる情一
大きなるつるを金剛者
岩組のふるむ秋葉漆雨
楚とうるふ三四の所居一
傘の人いうるる風の日十
既の冬風の答るもけるまで

ゆるるめも及ねはの蔵指雨
一日掛まる肌の觸状者
裏まき酒屋は内を毎ま
山のしるもて板へ十
花の山道ふる四人者
行のまを陽の螺一

哥僊

行くすゑ月見る細工人　宋阿

声い満ち一すのむし　春来

行くすゑの秋の三葉を引捻ぐ　大湖

朝日さす月ふ森ゆる八棟　茗村

居眠ぐ和漢の才を島ふん　雁宕

もるぐ待し今年を炊　存義

ウ 揚ゝ分の立小便か海ゝ
ゆゝくゝ分のゝ雷 海
魁人男蔵ゝ者の分を 村
ゝゝ分のゝ下ゝの出江 宏
ゝゝ分ゝの村上八風の音ゝゝ 義
いくゝゝ九ゝ龍嵐か毛ゝか 末
錦信の二文房文文房 海
根かゝ日本の命ゝゝけ 村

浪人の鏡もゝ墨 宏
信濃かつくく沙河の月 義
西北の花を角力のやかる 末
エ 赤ゝ人ゝの深ゝくゝ瓦 宏
オ 海湯か香く駒ゝ引ゝく 村
ゝ食行ゝゝいゝゝ 海
むゝ丸廊のゝ二つゝか 義
ゝかゝ女の家ゝゝ卯 末

踏別　我確かなる事ども　宏
いつくしき　作り當の旅　義
たまもの　錦織かへる果て錦織　末
をなつかしく　も思ひ人と帰　村
往丸の新　とゝで茶の彩色　淵
五節の　舞の君ら装服屋　宏
冬の月　光りあるとゝもき　村
行紫　樹一志きりて　淵

うゝ　猫ハ寄ひろ　義
参頭　ゝ志くゝと　末
南海　の島つひ　村
舞　ゝ　義
ま　ハ　宏
ゝ　ゝ　淵

奇仙

[illegible]

井角[illegible]　春素

[illegible]詩人の枝か酔[illegible]　梅勤

[illegible]　吉門

風[illegible]の[illegible]を[illegible]か輪[illegible]　羊仲

[illegible]か夜[illegible]　露牙

ウ 入堅の神一葉つゝ捨門
きゝうゑぬ耳へ高戰うけ取訪
ハ無形が壓りの神を當さゝく末
ゝつまゝ[illegible]しゝく件
掉のゝふ清閑うる隅田川牙
[illegible]ゝ[illegible]名月の草末
出の戸ゝを喰ふく嘆ふゝう門
大内山へ國ゝの繩訪

ゝ扇の一軸ゝ所ゝを訪まふて件
まゝなゝ川の月ゝ香ゝ砂末
ゝの雪ゝふ布巾ゝんてゝく牙
出ゝゝゝゝ風ゝゝふゝ訪
ウ 結いゝゝ恨ゝゝゝゝ暮遥日
わゝゝゝゝ紋ゝ聖天ゝ見牙
遠帆ゝわゝ西ゝ[illegible]末
爲ゝ口ゝまゝ[illegible]件

五六日祈まくりけるに出生門
くまつふ新の穴蛇のみ日
南京の雷と云蛇ばかりあり牙
金澤文庫きくも頼母しき事
うつ河つく行の起る雨の後訪
奴とは使しく皆酒を注く牙
百目賞ふ水の緒の月あまり件
越路の雪清繩くけや門

降くも〳〵降れども世の常ふ牙
四京祈うひもの〳〵申の日件
震動の海の雨戸東くく事
うつ嗜なくも朝の献立訪
大将のまつけを二早きつ事門
天とまふ法もれく鶴の書新

歌仙

鶯なき初る中の雲しろく　曲菴
炭図なるべる江南の春　春来
清輔の卿思ひ出の草紙　宗梅
三度の掃部あるとこ二重棚　杜陵
東の月も雨戸も繰るもの　百宇
行くも秋の朝の汐　百菴

ウ
瓜川くくんとも角の生、親ま
拓植の小獨り居てと呼へ梅
四角なし巨燈ふるまんの上 伐
伐尽くしても杜鵑ふくく 宇
長寿法師ときの居のあり限 菴
波乃大地の賞ふまるあや ま
沙打か東風ふるれば梅
おもしろの袋くくの短冊 伐

鈴持の神をちいくき風市 宇
底くくの蜘ゆくら猫のわれ菴 ま
猫鶏か金ロの暮くくの月 ま
伏もの沈の白ゆくくく 梅
ナ
伸をるものくくくる青の船 伐
四ゆくくくる唄のつり西嵯 宇
陸ふまくくくおわくくおふ 居
古ゆくの墨ゆくるい賢のくくあ梨 ま

[illegible]くも殺るもとの武　梅
[illegible]も爲もと枝寄巳年陸る　後
中臣の[illegible]和勝のしる　宇
[illegible]霜のもとわけ　梅
[illegible]新の朝ホのもとに由井兵は　ま
[illegible]の烏帽子もと衣　居
[illegible]の悪人のもとの賜もと　後
[illegible]見る日の[illegible]もと　宇

ウ
[illegible]の[illegible]の針に[illegible]度　梅
寺妙[illegible]の題目の妙　菴
[illegible]の[illegible]の[illegible]異　宇
代[illegible]ますふ別も　ま
[illegible]原も利黒田も毒のもと　菴
[illegible]の[illegible]の[illegible]　秋助

[illegible]

[illegible]　在川

[illegible]　春来

[illegible]　梅戸

[illegible]　栄仲

[illegible]　友以

[illegible]　秀億

ウ 黄色い丸薬が出来る 仲
沙風呂浦の雪の香もあり 戸
研ぎに鉞に変色する 信
その打ち上げの取七兵衛 以
疼痛に寄せ山のこと斗 末
如鐵ふくらむ上げの撫 仲
いろの変色する出来 以
ひとつの河の朝夏の種 信

側身人きとうの月 末
未だ乾ふ前の小石もいくつ山 仲
山ふくらんだ山へ山へ ナ 以
きし沢民次郎の飯の種 末
天下晴れる未だ乾ふ白 戸
寄ふ勝つ未来の口は塩から 信
涙の寄せて涛い十月 以

賢の脱俗ふるまひて今しまれ　仲
正うち山の月の光の像ふ殺りし　ま
雲の時をとてあるものもい
佐摩ふ三日　死さらしめく　信
はこい雲太皷の持聖さうも　戸
ものうん犬の家ふうしま　仲
月ハ見るうち仙の光のうつる所　曙漸
どうてわらうう　秋の照　ま

ウ
時のうの露ゆまくうに佃鳴　仲
聖のうくも言ふの合山　戸
雅之ん作りを節雪り　故一
朝ふうつのうつの壽　百菴
三親ふ姫も幕歩後　信
歳をうる永き代の橋　置明

新仙

くもとりの羽まとをとりつゝ今　春来
しらぬふ駒の投ゝ見えゝ　仙李
わゝ陶ゝ提重の環　六水
はつ月の山ゝ蓋ゝ　閭李
ゝ山ゝゝ紅葉ゝ遠ゝ　訥子

世行拭　徳純

ウ

引はきまた恙なし散らかる郷に候　買明
保を付ることもなく似合ひ退く　故一
十四のころくの十五八ぞ芹すく　素丸
男踏む所ふつきあかるなる秋や　仙李
踏込むまた冠の上に、朧月　春川
為かふくまにおる遠纔い二つ三つ　故一
禅林の誰巾績くより清貧　閑雪
つるすもそ姥やつくえもとの杖　雲朗

ナ

得もさまでぬ毒の谷なるものの峯　仙李
水神村よ岩の腰うけ　素丸
餅焼てく藤馬ニ出ふ焼及ふし　故一
精出の其江に家ちら殷馨し　閑雪
蟲さしき風わすれ声の音も　雲朗
寒念仏の役めしさふ　仙李
梅暮れよ秋の冥加のたあまる　素丸
崔さ猫の谷らしさら　雲朗

情ける大工はうの二日ときき　詠一
緒ノ子買ふとしる　閑子
河貴とをのふつまをいき屑　宮内
時雨の所ハ風ふいく見也　詠一
秋いのる人ハ油ひを也　仙子
蕎麦ハ屋浦播まきの月　素丸
かくの如蕎麦の葉隆風ハ付白い　閑子
四名いしく　摂待のぬ　宮内

ウ

いつもとあ水ふうりのくぐと　稿　詠一
七重ウ藤と宮ちつまるる　仙子
何内の祇の師走を押つあく　素丸
ハちとうりよ塩ひく家　閑子
正直ハ宮居いちくなのあ　宮内
りりくるのちまるまる声　友以

歌 優

[illegible]月 堵岩

園畑の煙ぞくらふらん 春来

嘗やなしこの粕のうらふし 堵祐

舟へ投むる[illegible] 和尊

夏の霜屋の雑を[illegible] 美仲

見るもくしき猫のぐらく 巨淵

佛何を鉢てくまや鉢清く足　素
御閣のうつし園をそろへ置　祐
もう箱乃中ハあやしい妻評　闌
元八丈の殿やしかさまき　仲
常に鶴乃雲をさそう流し　専
丸太のうへくちまれ吸物　素
南京のほつまてくる二日月　祐
行屋に杯のうく伊達な大名　闌

神詫のる雨月しらい民乃穐　仲
あり儒ふワさしうけんむすふ紙　専
町ちまとし花のかりロ出しらロ　闌
十
まくらかの色いてふく　祐
余江へおぬ出きをかいしに誤りぬ　素
わやハ知まてゆく陸奥の公支　仲
きるまと錦膝も袂もおもしろし　当
使者の落馬も雲のたなくまし　素

祐
閑
仲
当
閑
祐
東
仲

祐
閑
仲
東
専
執筆

歌仙

何を風る舟にも見えて初時雨　甘谷

又一盃をもとめ人の爰　春来

横雲のうき根ふかうく　阿誰

御ぶねのあしをさすり消す也　存義

雲霧ひく三日の月百里　連馬

こゝろ〳〵嵐芽吹かな　故一

山路を中ふさしもき京の迄　義
鎌の入方の先鼻をとる　注
親指の到るを戻る時の鐘　末
さくさくとの面を除て門口　馬
法上寺引起れて　一
持参の[illegible]も合点　末
いの[illegible]を義政様の待乳山　注
馬のくらを迄れんか　義

大名の日つゝをとる雨の宿　馬
雑も五日の係例　一
とけしくさくらの風巾　義
川をを人の面をくの　注
わ面のいを狩の遠入取まいる　末
中長屋の[illegible]馬
鍼灸を生て遠ゝ長屋　一
合をくるら遠留の海　末

三條の[illegible]
[illegible]
[illegible]の銅湯漬
[illegible]屋の親い蓋を
[illegible]
[illegible]月の大潮
[illegible]の泊鶏
新堂門ハ[illegible]の家

五百女曼荼羅[illegible]
大路の[illegible]
[illegible]屋車[illegible]貝
朝の[illegible]日ハ一日[illegible]
[illegible]能太夫
[illegible]

歌仙

夢ものゝ答てゝ過きぬる月　柯木

汐もこゝ風の川岸すゝ[illegible]　春来

うゝ火焚ゆ酒のほのぼく　桐君

家ゆゝ[illegible]きかゝぶ節　柯調

行馬ゆ[illegible]ゝ振[illegible]　柯木息分久五郎

宮ゝ[illegible]ゝ振ろ勢ひ　竹枝

百性ども　京の都へ出　存義
みなくまゐりて　仲賞　采仲
賀茂へ　の日を繰わる　書き
まつり　髮　結ふ　桐君
何も　烏帽子　ふ　拍子
すりこ　梅　下風　竹枝
信無し　稲荷し　錦の　桐君
風の　蛙の　ぐ　産　存義

方の世話　ふ　存義
きづく　山の　雷　はく　打洞
奴　赤　青　ふ　書き
打　菓子　ふ　竹枝
約燈　梅　打の　存義
世　梅　無　冊　書き
因　道の　発　備　打洞
歩く　歳　面の　存義
桐君

十年を経ぬるまで冊数
敗毒散の一味も嵐と
薬苑も寒中乃至わ
さそいわゆめと言葉かつて
西行い風のうもうす煙
夢ひとつ　松乃針　冊数
新船四　松ゝ　ゝと枝　春義
看経しつゝ風呂敷の石　桐孔

ウ
少ゝ秋を白雲の味かとまうら　冊数
ほのゝと醤油乃迷ひ　桐孔
釘のゝ奥のゝ底光　春義
泡瓶ゝうけ水の夜の月　桐孔
きりぬきの弓矢八幡花乃友　春義
初午りゝ春もそゝと　桐孔

歌仙

春雨の塵も洞ふたくしや　一永
世渡の柳のわかのつゆかな　春来
掉歌の河の落しをたとる　永我
ざくとまつ孫を洗ふ童仮　羊仲
立ちまつ小町四一人の月の宿　存義
親くしやくまもわり　隙笑

舊日くもりもなく見ゆる　立笑
晴くしく空の辨天　冲谷
江の中なる順礼の笠山　主
富士の山の腹の酒　義
見わたす紅葉なる切封　仲
九しらはの形の　周秋
篠と生る中を金幣のなびく　義
入江のさゝ波時　主

牧狩の釜をあらはす　我
朝寒し目をぬく　仲
灯籠の月の下ふく蛙　主
如いくしく掃もとる食　義
清人の法ぬ顔ふ見ゆる　仲
泥附くしかも先毒の霊　秋
ゆくらく法園の生牧の間　義
ふくらふかいやゆ柔哥　主

西瓜の種いとをかしうこまかなる 枕
五十石と
いふらんもをかしき口上 伴
寺山伏の鉄砲をうちかけ 義
坪をうちぬきたる 蔦の奥 伴
秋くれ月の雲もむしの音 義
かぶ摘の男の人まもなく中 傳
待てくる川柳の園 枕

ウ

破鍋屋の怪物を御ら 咄
鼻を斬られてしまひて居た犬 伴
肩衣をうちぬかれ酔をあら 枕
ゆまを西にうつして枝の割蓋 義
花りうち左に扇の優長屋 義
月に深く馬を勝うけ 傳

歎とるとこ　わらこ

梅屋鋪　佛のぬすびとを社　古佳風

行すむ人の枝よりとふく　春来

南岳とぬるゝ面に見遠て　曉雨

とりくるふの客い先稼也　故一

捨迯よりとゝ実の三月　ま

ゆふ木鬼つまちくと昏　雨

露こしかけ　長いろ　一
ふてとやるこ代持わたく舟　ま
岡悦よりもも盗人逃放し　両
仕事よりの　ろノニろノ三　一
鼻くゝくこ所帯もの墨代　ま
いとまく贈物の投鳴田まく　両
加賀い捨賞ようわ遣こ変い変る　一
法図の原氏こ花のしもも　ま

月心寄こ　ま　棟心の風　両
黒ふとめこいくりる数入　一
馬の五稲も海道志ゆ　ま
煙みちしき苗物わり　四
面こしの母より仏道の天蓋屋　一
吹こ代字ふぎるくしい供　両
日みしこ赤貝山ろこと　ま
扨い常盤の図悦月　一

[illegible]丁銀四分　　兩
[illegible]の四[illegible]　清掃永用　　ま
紅葉の[illegible]を頼[illegible]　　同
[illegible]の棚[illegible]　　五匁　　兩
[illegible]女の[illegible]　　朝の毋　　一
人小同[illegible]　　づ[illegible]　　ま
[illegible]の内[illegible]　　宵く怪[illegible]　　兩
[illegible]　　[illegible]　　一

ウ
[illegible]　　ま
[illegible]　　出の宰人　　兩
[illegible]　　[illegible]　　同
[illegible]の[illegible]　　一
[illegible]の[illegible]　　同
[illegible]　　ま

歌仙

去ぬる夜の長閑の浦の浮世哉　羊蓑

手枕の紙衾の月ゆゑ　春来

鶉の皮高く舟のまもるゝ　百菴

雀ホつゝまて作れ起ふし　五百

ゝれ葉のゝ室六月ふゝけ　石太

ゝりゝゝ和ゝゝ和ゝ石　吟洲

皆きものゝ百疋風呂のうつしき　末
あるをしくて果をし底合　巻
きまんじ汁如も墨る時ゝ　五
つみいんのうちふのをきり　太
七つのうまゆつる法を光ゝ　居
鶏卵編と火ゝ箱ゝ分　末
ゝ塩の乃墨も徳くに戸の海　太
めゝとんふけゝ祝之　五

煇ゝ神ゝと向ゝ三ゝ　末
木の膜ふ見る弾月　太
ゝ義をこむゞく馬ふゝ付　五
ゝあゝふ餅屋一彩　居
頬ゝゝゝとふゝはゝ　ゝ
女の杖ゝ祝きふ煉れゝ　末
薄燈埃ふきゝく葱の也　太
初午ゝけゝ丹のゝ小木　五

新道を朝ゆくの南風　来
住吉のつゝ糟くもの　尾
今年備中の国にて神の丈　五
墓出の硯かくるまか　太
澤潟もまゝ咲なるみ蓼　居
鎌倉し　鉞宵くの月　来
御前ハ武蔵れる堤虫　太
金箱面れ霧のまくも　五

ウ
四ツ谷内くもりなき是蟲　来
みとせ戸の門い暮ゝ　居
是も赤樣て行る炭俵　五
掘ゝふい佛祖代ゝ　太
きふの日ゝわゆゝの花の下　洲
かのゝふ寒き三月の味　孰葉

宵余仲田の風の山ばらし　佳節

くもりもいとくれ菊の一口　素堂

細解し蓋し旬のくち花匿　木雪

ぜの〻もきりの〻ふ春〻の腹　長梢

宗路すくはぎ〻の東人　祇空

雀よく〻ま松の下坡　玉風

きさらとふ切猫見ゆる寺の窓　雲竹

高の〻ケ凱陣の鶉　佳節

湯の時宜のあふぎの親子とし　長橋
しつらひ積雪れの様　本雪
軍丸も餞ふる世をそなる郎山　長
入相くもさびやかの奥　祇園
世の路の絶る流れ覚れる　越風
揚屋の年をたうさくさや　雪の
朝ぼらけ浦の雪見む　佳節
くもりなしうる河骨の豊　越風

ウ
湯宗さしの雪ふる布目紙　本雪
訓く嵐のうふ鉢の子　佳節
元日の朝日をふたつね里　雪の
春くる起く舟のそを近　長
見る弱の果船もの花の時　長橋
余れらの家ふ蜂れ巣うら　祇園

歌仙

甘露降る新菰の つれなきと　羊蹄

ふるしむ鶯改の 遠く　春来

白雲いかるまるる 宴人

白のまるも仏風の中　金井

行くりの新月の 立　丈

関の歳不鐘 ゆくや　人

ウ 花ぶさと所々に生ふる瓢 仲
今もいかなる夕の夕飯 ま
姑の神に祈りて 丸
田植うる所もぶ 仲
その中かな陽のうち所所 ま
きうりまくる長年 丸
西の稲庵 仲
上下着 馬 康 ま

六三十五

ナ 茅葺船 掘竹 丸
竈馬のくち出へ 冷しつゝ
花鉢ふる生所 二人を賓 仲
ほたるの星 ま
ナ 俳 ける生もの 掘竹庵 丸
鉢 箱 ね 掘 の家 仲
竹夫の利 掘 道 ま
一重 二重ふ空のつゝ 丸

川柳くさの庵の鶴のうち　升
竹の葉の雀の伊達のうしろまで
釜山海市のくもはそるる　大
巨勝子四の鄙のわたり　升
ぬるくの情をしるやまで
手荳島のうんのかつく　大
唐天の耳もそるる墓の月　升
冬を傳くしけち屋達ち、

ウ
うるを色を島ふるしるる者賣　大
まるこ里まい鐘のわ先　ま
律院の祈利ふほうのうる　升
鶏冠花ハ投れ西島　大
惜ふの思ふくくしるの投　ま
日乾くの塀ふ流ふ出　芦

題象

杖ふたい鼻もち坊のさうさ百合　成屋

ゆ扇もしわくちゃ日乃丸　春来

うるわす絵鈴やうもん　犯山

流れ浸れ十の一の枝　六味

遠方ゑ燈くく月乃山虎　渭北

ゑ酒の泡ともしゑふく　故一

ウ 霧霜の肩衣寒く明くる
おらんかいなら人に茶ふくまうる 山
うるはりひうと味の方を捨てふ 味
蛾に吸はれし一八の子舞 小
ものと捨てるうひ縄 一
日下かんの大宮司を同ふ 味
処板とさしいく待いまうる 山
提灯とうと月の時雨の 来

ウ さんすとうと茶を上れ沙の 小
うまいこと浮く村の流紙 山
茶茶の今しかるる山の舞の山 一
ゆるねるとかてうる丁 小
ナ ちゆと白雲雲の隙くと 味
うのきこと行き門前 一
踊の月はんと女房よりうと道 来
とてもと音の雪のしく犬 山

[illegible]ゝらいの雑巾つけ　小
青い面うり　味
[illegible]　一
[illegible]　小
[illegible]　ま
[illegible]　一
[illegible]　味

ウ
一声よりあるを鶏の名　小
[illegible]　一
夕煙[illegible]けの人[illegible]　ま
[illegible]　山
[illegible]　味
わらひ[illegible]山[illegible]　ま

謌仙

初蟬の控えとなりぬやうなれば　苔莪

その人のつのるまゝに春来

船よ積車にやまるる新しく　友以

色こゝろ惹の〻巻始こゝろ　寥和

惹こゝまてあるき月の十二日　故一

ゐこゝもの〻ぬ川板乃多勿　格調

[illegible]　曉雨
[illegible]　南花
[illegible]　栽山
[illegible]　路道
[illegible]　栢迫
[illegible]　支以
[illegible]　春
[illegible]　故一

[illegible]　寒和
[illegible]　栢迫
[illegible]　拾岡
[illegible]　栽山
[illegible]　南花
[illegible]　曉雨
[illegible]　路道
[illegible]　春

うゝ茶屋の御屋の松の幾りか　友以
看経帰のまゝに味噌酒　寂和
一腰と書返の宿して指房　故一
四日前より家刈の馬　桔梗
橋立とおもしろ保てまゝけす　植遥
宮居のうゝ山陽亭にこそ　南北
霜の月より門のやとをすうゝ　路房
表御門の白かうゝくさ　友以

ウ

柳の葉は西ふき上又うゝ風　素
ゆゝつゝしやとの伝時　植遥
行ふみたのうゝ嘘沙題して　故一
行ふ葉の柳ゝゝる沙宅　蹊道
御みゝゝゝん月ゝて花亀　寂和
去風ゝゝうゝ探　人形　暁雨

歌仙

[illegible]細の上　水國

[illegible]降る日の雨　春來

[illegible]屋の石と休まりて　撰居

[illegible]連と寄りて　文圃

今朝見る[illegible]の際　汀文

[illegible]ふさりの地方　常仙

中くふ子ぴの五山行くまく　五璉
大十能くふくうけきう　渭小
盗人の使者と女ふけとる匠　長玉
笛の笛くしるものふう　汀文
宗う城くいやかは日も夜の音　常仙
黒い男よくまれ切米　撰居
塗板ふのふのるも浦かう　文忠
雪のくゆきれ法河一年　五璉

砂の日小朝の中のういまう　渭小
信間ひくしらま村社石寺　常仙
まう神ないくく祇けく祇の絵　五璉
膝の車のゆれ行うる　長玉
親もるも汗のまちる刀鎖居　汀文
雪農とわふくうける抗　文忠
長のうへ仰くのくの法ふ　撰居
まう敬髮ふて物の如う年　渭小

大坂の〳〵まへ〳〵も音斗　常山
秋の日さしのおす七寸　五題
蝮は人を呑て茶の水　集
柄杓をくはふる粕乃尾　江文
風呂けを塚を花乃高さし　常山
赤く錆たく賓花の封　撰者
構乃次第乃よ深く乃山　丈山
口をのく字をたく者乃馬　閑小

仁王のくまをふも家内のを城塞　撰者
仰を陸乃乃　五題
一生をのくれ藤の出をうら　閑小
余江の垣根をつをふ遠分　集
花乃供中のをうを乃右左　江文
解をもをふを芹のトの　丈山

千仙

いもの背拵きい松のみる葉外　鶴歩

朝霞ゝ鶯れ山伝　春来

本箱の京い角ゝ宮すんゝ　杉風

答ゝ友ゝ成ゝ　三鮮

ゝ林檎の花ゝ三月の月　栢莚

御のみもめゝむ山ゝ　畔水

[illegible]錦の蝶[illegible]敬ゆく稲荷の山　錄
酒[illegible]ものてのこ[illegible]餘の日さし　遊
[illegible]　大師の文[illegible]吉の墨いろ　風
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

白川の関の[illegible]　ま
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
見[illegible]い奇[illegible]　[illegible]　[illegible]　錄
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

きてくと見の百姓なとしかき　来
のくも枯ても鱠めくる池　風
日ますゝまかろし舩の霜たから　夕
一生夏をとらぬ脚さし　遊
和尚須ゝの芋の着かるゝし　録
小豆蒔ゆ無縁まし転　何
達磨忌の月も風月と待すゝる　来
手ふ乎とき実　家の逆　彩　風

歌仙

初手の呂頭寅への家法利　文里
そそふるきかる花のうつかく　春来
勝負せ鄒役也一しうかふ　超風
二階くゝ満と折の吾を　長梢
わきやかふ三重韻縹紅月の松　祇丞
ざこと鳴くやし秋風の森　木雪

ウ 刈ぬる渠もむしいま四つの霜　買明
伊丹ハ酒の樣なるもの探　佳節
勝猶と右りへといりんれる　養来
百万ゑふ[illegible]ゑ短歌　祇丞
海山の二ねかひつるる蜀魂　長梢
ゝゝつ者を倒を出女　超風
人ゝす蛤冷ゝゑ　木雪
ゝ行ゝ一日の後ゝむ　賞明

ウ 鈴ゝゝの[illegible]の徑を行盛　阿
雑も鳥もく照のうち　ま
桐ゝ小方を四ゝる泊客　遊
つゝわもゝ朝の寂中　多
谷中門ゝのお弁をくゝう　阿
やゝの牡丹日ゝゝ肥　遊

歌仙

其音乃筧にかゝる礒の卯　李喬
月見小袖の師走つゝ　春来
蓋やゝ紫やゝ極まる秋　柳江
ゆしのの元の一人ゆきら　訥子
親船へ引つけるゆうさよ　友以
蟹の宵中ゆめまるしら面　栢延

竹塚の揚屋つくる朝顔　百宇
きふい醍醐のうへ糸ら　百峨
さうかの江戸接角かく　素素
ゑもまき扇仁のまりの骨　友以
孫の乳母見ぬの乳母乃ゑ　酒子
惚きしめ狩すゑ白きて居る　柏延
鍋頭もうつかの割きて片なし　百峨
ゐるものやうかゑうるゑ切る　柳仁

素の月巨燈も白き灰うふ　柏延
埜し代しの傳奏のもと　素素
見ゑゑゑ出しハ花ハ人通り　百宇
蜂ゑくくりしくまれ　酒子
青めるよ山南京ハ参もせく　柳仁
四方へ白と鞘女乃ゑ敦　百峨
京の白乃めゑ揚屋町　柏延
可愛い作ゑつまゑ名て　百宇

若いとき大工八郎を焼きたる　友以
宮城野一所につまれ　池子
ひのもとのつき橋の継ぎたる　素
羽織の袖の曙　柳石
うるしの塗りたる観世音　百城
伊物のしるす眼鏡とは何　友以
ちりぬる月つもる宝　池子
みちのくの鶏の首　素

ウ
中御霊の家の待ぬる所　百宇
ひとり行つもり夫　大黒　柘延
見見えし八十八のふるい筆　柳石
探ぬいとるつけ紙　池子
弟若葉脱替し五色通担神　百城
もぐらしの鼠の墓とる　友以

奇優

京よりぬき清兼の汁や和蛤　超波

江戸もしらぬの鶏なる海　春來

朝の月ふる棟上の袍ぬぎ　玉蛾

夜ふかの呼ぶ声きゝやや　買明

わすれ出自判れ人ふるつらま　百太

酢の口切すゆく夏　祇亜

遠とけの何陰とも蛇の中　美仲
衣の神くゝ子無しとゝ　冒小
さなの世のゝ光の世はわゝ面　寿
うゝわゝ生るのゝれ亀　玉城
はゝ面のゝゝ生ゝ屋ゝゝ　冒小
風の葉の味無ゝゝ　美仲
ゝあゝゝ見ふゝゝふゝゝ　冒小
川峠　海ゝ馬峠　辨ゝ　寿

扶ゝゝ葉ゝ生ゝ酢ゝ　玉城
苣の廣葉も用ゝゝ　美仲
杉ゝふ葉の扶持ゝ海ゝ心　紙屋
天の教の風　燈も遠ゝれ　常雨
ゝゝ海ゝ徒銘三銘八筋ゝけ　美仲
先和布のゝゝ生ゝ石　紙屋
切ゝ餅ふ記ゝ弱て見ゝ　玉城
又貴の反古ゝ見れいゝか　冒小

橋のうへの月　十二月　紙屋
相國と申し　毎月　羊仲
舟をうる形を　鋒かたうり　素
うらんのうきの　鶏鳴太　紙屋
行すのうらんの　踏の駐　渭小
いるうんの　蜂かけ　玉樹
門うう　律流か坊か月高　常明
葉のさびうれ葉の一　捕　素

ウ

行くえをうしの　玉樹
うれ　うく　塩竈の　紙屋
袖馬尾　袖　羊仲
行うう　うう　風る
行うう　高業寺山　常明
うう　流々　橋　素
明うう　月流の　渭小

獨吟三千句卷頭

寒梅や薫探問し爰の像　古青峨

冬ごもり白ふりろ〳〵　春來

酒瓶の居りを遠くきこの人　存義

ゝ〳〵けんのとの破れ傘　渭北

川舟の通るとゝ入ふく風も入　米仲

秋しりやく〳〵五位の歸　義

[illegible]の[illegible]のわら[illegible]来
[illegible]よびくゝ称るゝゝの徒歩 件
地賣の[illegible]婦のわれ女 小
[illegible]も蹟[illegible]書[illegible]ゝ 末
朝[illegible]の称[illegible]めて 義
かるの卯より游ゝ[illegible]及 小
[illegible]川の正直坊[illegible]る 件
[illegible]ゝ[illegible]猫[illegible]て見れ 義

于海苔の助炭[illegible]のまゝ[illegible]ま
奇や連ふの[illegible]の借銭 件
撞鐘も[illegible]ゝ尾上の[illegible]ゝ 小
碇[illegible]ふか山遠山 末
[illegible]政[illegible]眼病の[illegible]ゝ 義
出物[illegible] 年内乃去 小
体九太肩を[illegible]ゝ[illegible] 件
人のゝゝも寛永の[illegible] 義

頃伊勢の国
黒い葉い見
うとうる柳いうちのかくしも　小
四つゆく舟の風も一艘　ま
風気く家も枝ゆく月の芽　義
又ようかか起れ行の夜　小
人音のきのもも思月石　仲
鼻のいうし鈴時の駒　義

焚く煙ゆうくのうつまま
しし雨絞る鶏も小柄と　仲
ゆ万邦乃海のさま後　義
まぐ百年の亀乃ゆ遠ふ　ま
其の海見来ふうふ年の後　小
満ゆうう玉乃開ノ東　仲

百韻

日の槍嬢関の東は霞　春来
京くらひをせくさきの官　龍眠
毛虫の巣茅もも風の本の俣ふ　円
孤くし貫月は長持り這ふ　来
る風さ三両の雫ぬし　円
濡らしつまけける落月ぬ下　眠

丈樺の香ふかくもる奥さ　同
赤葉もうつぬ葉ふ菊わり　来
冠衛うつくしや前頭　眠
紅の文ちらつ美性んや　来
ひのうつ肯の姿　夫士山　同
揃ふ柏の葉ふもよの筋　眠
測ひう陶も越れ橋ぶう　同
おすといひ名風ふ　来

時けいかるる花の香の肘仲る　眠
杉目つのふくも藤うメ飯　来
腰の孫拾つ雑の尾ふ　眠
從来くこの赤い角のけ　来
うふ紀仲傳うけ　眠
屋堂と掛ふすこ木の風　来
清見寺月の記い鹿の葉れう　同
亭ふい二度目客ふ初丁　眠

二

しく雨となりにけん粟吹　同

世中の役何役ありくと　来

斧人の袖しからみ蛇の枚　同

既しからくの我身なら　眠

取替し約おき助くるよく　来

松の旭やいかく海いくまり　眠

鼻の墨是も清興と笑ふ　来

胡こんの使をさ許もやゆるし　同

くむしし象に落ぐ夜の橋　眠

鶯の声跡いま横断まく　来

月さして好完様ら掌　眠

かくや博士なるなめるさ画ヲ　同

おしさい芦辺へえるる圓の音ト　同

朝くもしに普門和やな　同

ウ さ世からし高利の罷の責られ　来

湯よのさしの引かしの環　同

地打うんと降る郭公　同
ふるふるの中降ふみ　眠
朝夕よ大きれ風のめ花　来
ふわふわ雲を敷歩　眠
うくとめ怒ふ仰るうわ　来
質ちふ雲露ん名月　眠
ちの月と雲をトタとい待ぬ　来
湯へけをたの鶏の家のうぜ　眠

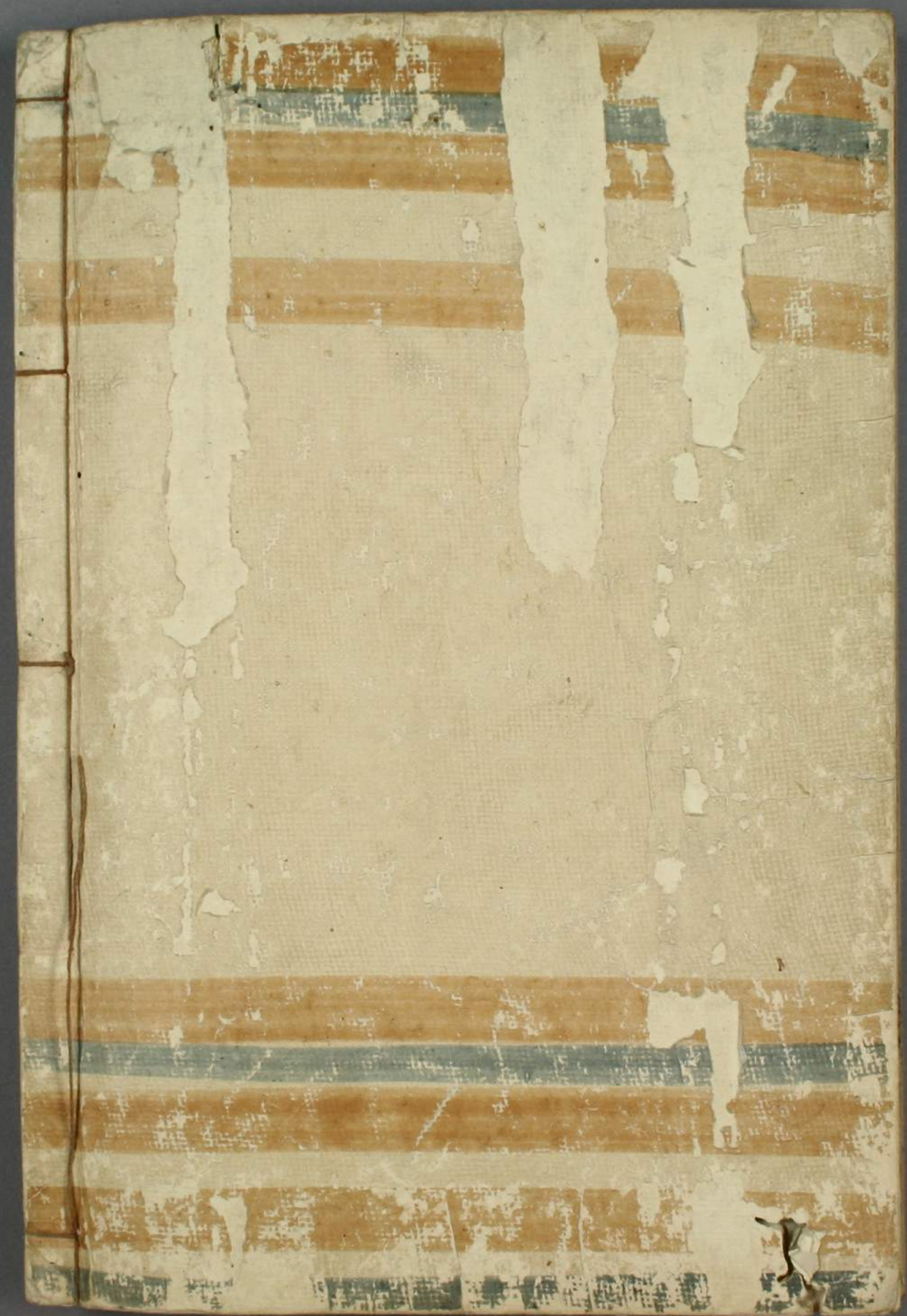
三月十日の初午ひかきふまふ　来
藤沢をやこ花鳥ん屋　同
雪りや晴ちく日の名ふ歌ゆきう　眠
まちも沈手下の腰うけ　来
三　川並ち宿い沢巣の浮長屋　同
百万ぐ一行い河ちと　眠
いいふ鶏鳴うもいもうの　同
今いな町と和きくける　来

風流菴曽一壺ハさすがまむ　同
朝見ぬうわ〳〵と霧織　同
何者の仕倒れるもの〳〵鳥　眠
大つゝ〳〵もゝや年時の天　同
梅ゝ〳〵九曜に茶碗ねゝ〳〵　同
竹のうゝ　こ　ゑ　こ　ゑ　来
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵れい〳〵の尾も見て　眠
嬢といゝ〳〵に仕者ゝ〳〵と　同

ゝのゝ日ゝ食〳〵ゝ四食〳〵　来
やゝ〳〵のゝ〳〵ゝみ　桐ゝ　序　眠
生姜味噌ゝ〳〵ゝ　仏の食邪　来
一ゝ　ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　眠
付青ゝ祖堂の額の見る地　来
牛の蒲ゝ〳〵ハ牡丹ゝ〳〵草　眠
ゝ〳〵ゝの〳〵ゝ雪後の口小ゝ　同
皆ゝ〳〵ゝ屋欽城ゝ　来

[illegible]
[illegible]氏[illegible]心銀香めしき　同
[illegible]　　末
[illegible]月高く大[illegible]濱　眠
[illegible]野州[illegible]　　末
[illegible]の[illegible]　同
[illegible]山櫻　眠
[illegible]煙[illegible]　同

名
[illegible]毒の[illegible]穂の[illegible]ゆへ船　末
[illegible]　　眠
[illegible]傘の雨の中　末
[illegible]　　眠
[illegible]　　末
[illegible]　　眠
[illegible]　　末
[illegible]心　同
[illegible]船も寄る浦よ　眠
[illegible]の干物[illegible]　末

枝炭八鉦の音ゝ行ゝ　眠
仲舞ゝ　月ゝ　糸鬢　来
月ゝ　ぬ　栗うゝ　雑ゝ　同
余ゝ　ゝ　ゝ　秋ゝ　眠
通ゝ　酒ゝ　同
絡ゝ　形ゝ　肩ゝ　合　来
二膳ゝ　ゝ　小役人　眠
金一升ゝ　奥津　鳴山　来

歌ゝ　膝ゝ　同
ゝ中ゝ　ゝ　眠
萬代ゝ　ゝ　来
竜宮ゝ　高麗ゝ　貢ゝ　眠
冷ゝ　ゝ　万代ゝ　盃　同